

技術士 1 次試験に合格して



寺垣 純
(てらがき じゅん)

勤務先

石狩西部広域水道企業団

施設課

〒004-0054 北海道札幌市厚別区厚別中央 4 条 6 丁目 2-1

TEL 011-891-7777 FAX 011-891-8822

E-mail teragaki@ishikariseibu.or.jp

■ 専門：環境部門

1 自己紹介

私は学生時代に、環境科学という学問領域を専攻しており、微生物による環境修復技術(バイオレメディエーション)について研究していました。

就職後はそのような専攻とは全く関係なく、製糖工場で勤務しておりました。機器・装置の整備や、運転管理、製造計画立案、法律関係対応などといった業務に従事し、製造業の現場を知るという貴重な経験を得ました。

その後は訳あって転職し、札幌市水道局にて水質分析や水質管理といった業務を経験した後、出向という形で現在の職場に来ております。

ここで PR も兼ねて現在の職場を紹介させていただきます。石狩西部広域水道企業団というと、何をやっている組織なのかイメージがつきにくいかと思います。一言で言うなら、石狩西部地域の自治体(石狩市、当別町、小樽市の一部)に水道水となる水(水道用水)を供給する事業を行っています。水道用水は各自治体に供給された後、各自治体が水道水としてお客様にお届けします。そのため、一般の皆様にはなじみが薄いかもかもしれません。

私はその中で、当別ダムの水から水道用水を製造する、当別浄水場の運転管理に関する業務に従事しております。

2 受験体験

もともと自己啓発として、仕事内容に関係のある資格や、仕事に役立つような資格を取得することを心がけていました(決して資格マニアではありません!)。その結果、技術系の資格をいくつか取得することができ、次はどの資格を目指そうかなと考えておりました。その時に、どうせ目指すなら技術系資格の最高峰を目指そうと考えたのが、単純ではありますが受験のきっかけです。

ここで多くの人は疑問に思われるかと思います。「水道関係者なら上下水道部門を受験すればいいのではないか?」と。しかし、私には下水道に関する知識が全くなかったため、上下水道部門での受験は断念しました。そこで、業務として環境部門の試験範囲に含まれる水質分析を行っていたこと、学生時代の専攻が環境であったことにより、環境部門で受験することにしました。また、水道水は自然からの恵みであり、水道水質管理を行う上で、水源環境を保全し理解することも重要です。実際、業務で環境関連の知識も要求されますし、環境関連部局との関わりも多いのです。

さて、一次試験を環境部門で受験することを決めたのですが、専門科目の勉強には苦労しました。参考書があまりにも少なかったのです。そこで、過去問題集を購入し、それを解くことから始めました。その際に、ただ問題を解くだけでなく、それに関する法律や最近の話題をインターネットで調べるといったことを行いました。これにより知識の幅を広げることができたと思います(しかも参考書を買うよりも安い!)

基礎科目と適性科目は、多くの問題集が出ておりますので、自分に合ったものを一冊購入し、数回繰り返し問題を解くことで乗り切りました。

3 今後に向けて

技術士試験の大きな特徴として、二次試験の存在が挙げられるかと思います。つまり一次試験を通過しただけでは意味が無いということです。二次試験ではより実践的な内容が問われることと思います。これを乗り越えるために、日々の業務において専門知識を身に付けることはもちろん、課題解決能力やコミュニケーション能力といったことも身につけていきたいと思っています。

技術士 1 次試験に合格して



太田 真吾
(おおた しんご)

勤務先

和光技研 株式会社

技術部 水工課

〒063-8507 札幌市西区琴似三条7丁目5番22号

TEL 011-611-0206 FAX 011-612-2092

E-mail s-oota@wako-giken.co.jp

■ 専門：建設部門

1. 自己紹介

現在、私は札幌市西区の和光技研株式会社という建設コンサルタントに務め、主に河川構造物の設計業務に携わっています。生まれは陸奥湾南端のホタテ漁が盛んな青森県平内町ですが、父親の仕事都合から引越しが多く、青森県八戸市、岩手県一関市・釜石市と遷り、その後盛岡市で 15 年間で過ごしました。盛岡市は中心部で北上川・中津川・雫石川が合流していたので、河川を身近に感じながら育ちました。北上川に架かる旭橋から見た岩手山は絶景で、今も心に残る原風景でもあります。一方で、身近に感じていた北上川が大雨ではん濫しそうになった時には、自然の脅威が幼少期の心に深く刻まれました。

2. 土木に携わるきっかけ

文系の高校を卒業してから数ヶ月、日雇い労働をしている中で淡路島に行く機会がありました。その当時、阪神・淡路大震災から約 3 年が経過していましたが、何事もなかったかのように見事な復興を遂げており、国土基盤を守る土木技術の素晴らしさを感じました。この時、幼少期に見たはん濫寸前の北上川の姿を思い出し、同様に土木技術により守られていたのだと気づきました。

その頃の私は、自分が生涯就く仕事、自分の能力を活かせる仕事はなにか？ということに常に考えていたのですが、土木技術に携わる職業に就けば、誰かが同じ様に気付いて感謝・感動してくれるのではないかと感じ、土木に携わることを決意しました。

3. 技術士試験

技術士一次試験を受験したきっかけは、同業者の先輩に技術者として早く認められたかったからです。どの業界でも 10 年経験してやっと一人前と言われるのですが、入社 3 年程経った私は「技術者として私はこう思う…」などと調子に乗っていたところ、

先輩に「技術者と名乗るのは 10 年早い！」と一喝され、取引先の担当者にも怒鳴られる始末でした。

今考えれば当然なのですが、“技術者”を名乗る以前に何もできていない自分を恥ずかしく感じたのと、まだまだと言われて悔しい気持ちが芽生え、技術士の資格を取って先輩達を見返したい、認められたいという気持ちが芽生えました。

4. 合格までの道程

ところが、一次試験「共通科目」が障壁となり、3 年連続で不合格。そのうち初心を忘れかけ…何度か受験しない時期がありました。

そんな私が再び一喝された出来事は、2011 年 3 月の東日本大震災でした。少なからず思い出がある岩手県沿岸部を訪ねましたが、一変した景色に言葉を失い「土木技術者としてなにかできないか？」と強く感じました。それと同時に、初心を忘れて努力を怠っていたことに気づき、強く反省させられました。

土木技術者として復興に貢献するためには、技術者として一人前になることが第一条件と感じ、技術士の資格取得に挑戦することを改めて決意しました。

それ以降、社外講習会等では外部の先輩技術者と接することで常に自分がどのレベルに立っているのかを意識し、モチベーションを保ちました。また、社内の勉強会では技術者倫理に取組み、日々の業務では「常在戦場」の意識を持って業務の基本を改めて理解するように努めました。併せて先輩技術士の指導もあり、初めの決意から 10 年を費やしなんとか合格することができました。

5. 今後に向けて

今後も緊張感を維持できるよう、技術士二次試験に挑戦します。自らが目指した姿に近づけるように、当社の社是「信じるに足る自己を養え」の言葉どおり、自己研鑽していきたいと思えます。

技術士 1 次試験に合格して



杉本 光祐

(すぎもと こうすけ)

勤務先

株式会社 ISS 北海道

技術推進事業部

〒001-0012 札幌市北区北十二条西 3-1-15

TEL 011-758-5600 FAX 011-758-5610

E-mail sugimoto.kohsuke@iss-hokkaido.co.jp

■ 専門：機械部門

このたび、技術士 1 次試験機械部門に合格しました「杉本 光祐」と申します。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。

- ・年齢：30 歳
- ・出身地：別海町(牛のまち)
- ・趣味：サッカー観戦
- ・業務内容：CAE 受託

CAE とは、コンピュータを用いてモノの強度などの性能をシミュレーションすることです。主に、自動車メーカーや電機メーカーなどが顧客となります。

それでは本題に入らせていただきます。

【受験動機】

どんな仕事でも同じだと思いますが、業務を進めるにあたって学ぶべきことは大量にあり、日々精進が必要です。しかし、自己学習をするにもなかなかモチベーションが続かないことが悩みでした。このまま無駄に時間を浪費してしまうことに焦りを感じ、短期の目標を作るために資格を取ることにしました。私の専門である「機械工学」で該当する資格を調べた結果、技術士を発見し受験を決めました。

【1 度目の挑戦】

私の受験動機は自己学習のためでしたので、専門科目のみを勉強しました。過去問の参考書で学習を始めました。問題の内容は大学で学んだ基礎的な内容がほとんどでしたが、卒業してから全く触れていない内容はすっかり忘れていたため、思い出しながらの勉強となりました。勉強時間は主に寝る前の 1 ～ 2 時間でした。この勉強時間の設定が非常にまずく、仕事が忙しくなると 1 日やらなくなり、2 日やらなくなり次第に間があき、気付けば受験の週

となってしまいました。結局ほとんど一夜漬け状態で試験に臨むことになりました。結果は当然不合格。しかも勉強の必要が無いと勝手に判断してしまった適性科目での不合格でした。悔しい思いはありましたが、専門科目が合格ラインだったことに満足してしまい、翌年は受験しませんでした。

【2 度目の挑戦】

不合格から 2 年が経ち、20 代最後の年になり、また資格の取得を頑張ろうと考え始めました。そこで技術士 1 次試験があと少しで合格だったことを思い出し、次は適性科目もしっかり勉強して臨めば合格できると考えて受験を決めました。今回は勉強時間を変えました。夜ではなく、いつもより起床時間を早めて朝に勉強することにしました。すると頭がすっきりした状態での勉強はとても効率が良く、朝刺激を受けてから仕事に行くと朝からエンジン全開で業務を進められて一石二鳥でした。朝の勉強は非常におすすめです。結果は朝勉の効果もあり、無事合格することができました。

【合格後】

合格してからは技術士補として技術士の方の仕事を見てみたいと考えていました。しかし残念ながら社内に技術士がおらず、北海道は機械部門の技術士の方は少ないため技術士補になれていません。技術士補を経てから 2 次試験に挑戦しようと考えていましたが、それは諦めてこのまま挑戦しようと思いましたが、2 次試験も朝勉で突破できるように頑張ります。2 次試験を突破できた暁には、北海道内での機械部門の技術士を増やすために活動したいと考えています。まだまだ未熟者ですが、宜しくお願い致します。

技術士 1次試験に合格して



藤澤 紘
(ふじさわ ひろ)

勤務先

株式会社 新薬リサーチセンター
 研究本部 非臨床研究部 安全性グループ
 〒061-1405 北海道恵庭市戸磯 452-1
 TEL 0123-34-0412 FAX 0123-34-1950
 E-mail h-fujisawa@ndrcenter.co.jp

■ 専門：生物工学部門

1. 自己紹介

私は、医薬品や食品の非臨床及び臨床試験を行っている受託研究機関に勤務しております。

入社から現在まで、非臨床試験の安全性試験の業務を中心に行ってきた今年で9年目となります。

2. 受験に至るまで

技術士の資格については、学生の頃から知っており取得したいと考えておりました。しかし、当時は難易度が高くて受からないだろうと思いきや受験はしませんでした。しかし、会社に入社してから毒性学など仕事に関係のある知識を習得していく内に、勉強すれば受かる可能性があるような気がしてきました。また、今後仕事をしていくために何か強みが欲しいと考え受験を決意致しました。

3. 受験勉強について

まず、基礎及び適正科目については参考書2冊をひたすら読み過去問を解いていくという手法をとりました。

基礎科目は、「設計・計画に関するもの」や「情報・論理に関するもの」など自分が今までまったく勉強してこなかった分野があり、予想以上に勉強時間を費やしてしまいました。適正科目は、常識で解ける問題もあったので、普通に勉強していれば問題ないと試験前は思っておりました。

専門科目については、専門書を数冊読みながら、過去問を解いていき、さらに問題に関連するキーワードなどを調べノートにまとめて覚えていくという手法をとりました。しかし、範囲が広くなかなか勉強が進まず、また、前述のとおり基礎科目に勉強時間を費やしてしまったため、専門科目については明らかな勉強不足のまま試験当日を迎えてしまいました。

4. 試験当日

正直、今年に関しては合格出来ないと感じておりましたので、実際の試験がどのようなものを体験することを目的にし、試験を受けました。

まずは、適性科目については過去問どおり常識で解ける問題が何問かありましたが、解釈次第では選択肢の中で2つ正解があるような問題がいくつかあり、思っていた以上に苦戦致しました。

専門科目については、幸運なことに自分が仕事や学会発表などで勉強してきたことに関連する問題がいくつもあり試験中に合格点に達したという手ごたえがありました。

基礎科目については、思っていたより簡単な問題ばかり出題されたので確実に合格点に達しただろうと思いました。

試験の結果は、適性及び専門科目についてはかなり危なかったですが、合格することが出来ました。しかし、今回合格出来たのは実力より運の要素が強いと感じたので複雑な気持ちでした。

5. 今後に向けて

実務経験については7年を超えているので、二次試験を受ける予定です。現在は、ちょうど受験申込書の業務内容の詳細を、自分の業務が果たして技術士として相応しいのか、また高度な専門的応用能力を発揮しているのかと考えながら書いているところです。

二次試験については、勉強をしっかりとし万全の準備をととのえて挑んだとしても一発で合格するのは難しいと考えております。

しかし、勉強したことが無駄になることはないと考えておりますので、この先挑戦し続けていきたいと考えております。